

「今、僕にできること」

兵庫県 関西学院中学部 1年 ^{やまなか}山中 ^{みなと}湊翔

毎年、日本のどこかで土砂災害が起きています。土砂災害に対しての対策がされていて助かったという命はたくさんあります。その反面、対策がいき届いていない場所では、命を落とす人もたくさんいます。

日本は、世界でも有数の土砂災害の多い国です。日本列島の地形や地質、気象などの自然条件に大きな原因があります。日本は平地が狭く、土砂災害の起こりやすい場所にもたくさんの人が住んでいるため、大きな被害が出る原因となっています。僕はこの日本に住んでいる以上、土砂災害について考える必要があると思います、僕の住んでいる兵庫県西宮市を参考にして考えたいと思います。

西宮市では、平成7年阪神淡路大震災の時に、仁川百合野町地区で大規模な地すべりが発生しました。たくさんの土砂が一瞬にして流れ込み、13戸の家屋を飲み込み、34名もの命が失われました。小学生の時に授業で学習しましたが、西宮市は明治時代から砂防事業が盛んに行われていました。では、なぜ防ぐことができなかったのか、今の西宮市はどれくらい対策が取れているのかを調べてみました。

土砂災害は主に地すべり、土石流、がけ崩れの3種類があり、合計で264箇所の土砂災害警戒区域があることが分かりました。そのうち、土砂災害特別警戒区域は133箇所で、明治32年頃から130年ほどかけて対策をしてきたにもかかわらず、まだ半分くらいしか対策ができていないことが分かりました。

土砂災害は、いつ、どこで発生するかは分かりません。全ての場所の対策が終わるまでに、明日にも僕の住んでいる場所で土砂災害が発生するかも知れません。だから、僕は、「今、僕にできること」を考えたいと思います。

まず「今、僕にできること」を4つ考えました。

1つ目は、自分の住んでいる地域の地形などをしっかりとあくしておくことです。土砂災害が起こる原因の1つとして大雨があります。大雨が降った場合は土砂災害、川の氾濫、洪水などの危険があるから、一番近くて川からも離れていて、高台にある小学校に行こう。みたいにあらかじめ地域のことをしっかり理解しておく、冷静に的確な判断ができるようになります。

2つ目は、地域の人達、近所の人達、家族との連絡手段をつくっておくことです。大雨や土砂災害のえいきょうで電気が使えなくなったらスマホも充電ができなくなり制限がかかってしまったりすると、危ないからです。僕の場合はまだスマホを持っていないので集合場所を決めています。なぜ連絡をできた方がいいのかというと、一回土砂災害に巻きこまれてどうにか息ができても生死の分かれめ、タイムリミットの72時を過ぎると亡くなってしまう可能性が高くなり命が助かるには地域の方に助けてもらう他ないからです。

3つ目は土砂災害に対しての心構えです。僕はこれが一番大切なことだと思っています。土石流や地すべり、がけ崩れなど気づいても一瞬の出来事なのでよけることなどほぼ不可能です。ならどうすればいいのか。答えは1つあらかじめ逃げるしかないのです。しかし死人は中々減りません。なぜなら逃げないからです。自分は絶対に大丈夫だという自信、さらにその自信を疑わない心、僕はこの油断が一番の大きな死因だと思っています。

4つ目は、自分が自宅にいる時だけに災害が起こるわけではないということです。学校にいる時、旅行に行っている時などいつでもその場所がどんな場所かに注意し、もし逃げるとすれば、どうするかを少し考えておくことだけでも命を守ることができると思っています。

これまで話してきて、調べてきて僕は自分たちだけでお金もかけず、自分のお金にかえることのできない「命」を守るすべがこんなにもたくさん知ることができてよかったです。

僕はまず自分が逃げる行動を起こすことで身近な人達にも声をかけて、一人でも多くの人が避難行動を起こし、命を守れるように、勇気を持って行動したいと思います。